

イルクーツクの魔女：イルクーツク州ジマ地区 マスリャノゴルスク村での フォークロア調査を端緒として

塚 崎 今日子

はじめに

2004年8月14日から9月6日にかけてロシア共和国イルクーツク州ジマ地区のフォークロア調査に出かけた¹。モスクワからイルクーツクまでの片道が鉄道で3泊4日かかるという交通事情、また現地での移動手段確保の困難や天候不順といった理由により、実際に調査を行うことができたのは8日間ほどだった。うち6日間はマスリャノゴルスクという村で聞き取り調査を行った。

マスリャノゴルスク村は、ジマ地区の中心ジマからオカ川を南西約3.5キロメートル下った位置にある(添付資料1～3参照)。調査時における村の人口は約650人、戸数は約400戸、学校、病院、商店(私営が5店、国営が1店)そして教会(実際に機能していたかどうかは未確認)がある比較的大きな村 село²であった。この村では魔女³に関するブイリーチカ⁴をいくつか採録し、また最

¹ ゴーリキー名称世界文学研究所上級研究員 E. ミニョーノク主催。調査への参加は札幌大学2004年度研究助成(個人研究)を得て行われた。

² ロシアの村には、小規模な деревня と、複数の деревня を政治的・経済的に統括する、比較的大規模の大きい село の2種類があり、前者には教会は無いが、後者にはあるとされる。

³ ведьма (ヴェジマ)

⁴ быличка (ブイリーチカ) とは「本当にあったこととして語られる不思議な話」のことである。この場合の「不思議」とは、常識では説明しがたい超常現象や非日常的な体験、不思議な存在との出会い、予兆や予知夢などを指す。ブイリーチカは形式的には散文フォーク

終的には「魔女」と呼ばれている人物に会うこともできた。このことが切っ掛けとなって、ロシアの魔女、イルクーツク周辺地域を中心とする東シベリアの魔女について、改めて検討することにした。

本論では、まずロシアのフォークロアにおける魔女の一般的イメージを整理した上で、イルクーツク州近辺における魔女の特性を指摘したい。その結果を踏まえ、今回の調査で採録した魔女にまつわるフォークロア資料についても触れてみたい。

1. ロシアにおける魔女の一般的イメージ

ロシアを中心とする東スラヴにおける魔女のイメージは多様であるが、いくつかの点から整理してみると以下のようなになる⁵。

名称：古来東スラヴにおいて「魔女」を意味する語はきわめて多い。動詞 ведать (知っている) と語源を共有する ведьма、ведёма、ведьмица、ведунья の他にも、名詞 колдовство (魔術、呪術) と語源を共にする колдунья、動詞 вещать (説く、予言する)、形容詞 вещий (賢い) と語源的に関わりを持つ вещина、вещунья、вещая жонка、名詞 волхв (魔法使い、呪術師) と関係がある волхва、волшебница、動詞 ворожить (魔法を使う、呪術を使う) と関係がある ворожея、名詞 чары (魔法、呪術) から派生した чародейка、чаровница、名詞 бес (悪霊) から派生した бесиха、бесовка、名詞 кудес (魔法、呪術) に由来する баба кудесница、さらに「зелень (草) についてよく知る者」という意味で用いられたと考えられる зелейница などがある。これらの中で現在でも

ロアであり短いものが多い。また「本当にあったこと」として語られるため、登場するのは語り手自身や語り手の身近な人物 (家族、親戚、知り合い等) で、明確な日時や地名が挙げられることが多い。

⁵ 整理に当たっては以下の文献を参照した。Фаснер М. Этимологический словарь русского языка в 4 томах. — М., 1986–1987; Виноградова Л. Н. и С. М. Толстая Ведьма // Славянская древность. — М., — Т.1, 1995; Власова М. Новая абевега русских суеверий. — СПб., 1995; Новичкова Т. А. Русский демонологический словарь. — СПб., 1997.

イルクーツクの魔女：イルクーツク州ジマ地区マスリャノゴルスク村でのフォークロア調査を端緒として（塚崎今日子）

一般的に用いられているのは、ведьма と колдунья である。

活甃になる時期：大きな祝日、満月や新月の晩、雷雨の晩には魔女が活甃になり、人間や家畜に害を与えると考えられている。最もよく知られているのは夏至や聖ヨハネ祭（旧暦6月24日⁶）の時期である。その他には聖ゲオルギーの日（旧暦11月26日）、生神女福音祭（旧暦3月25日）、復活祭（春分後の満月の後の最初の日曜日。毎年3月末から4月末に当たる）、聖霊降臨祭（復活祭後の第7日曜日）、クリスマス（旧暦12月25日）がある。また1日の時間帯では真夜中に最も活甃になると考えられている。

魔女になる方法と魔女の種類：魔女になる方法は主に二つある。一つ目は代々魔女の家系の家に生まれること、二つ目は人間が悪魔的存在や魔女や魔法使いから魔力を授かることである。つまり生まれつきの魔女 природные ведьмы と、そうでない魔女 учёные ведьмы がいることになる。後者については、人間が自ら望んで魔女となる場合と、自らの意思にかかわらず魔力を与えられてしまう場合があると考えられている。

いずれの場合も魔女は何らかの悪魔的存在から力を得るわけであるが、生まれつきの魔女は自発的に魔女になった者より善良といわれ、自発的に魔女となったものが人間にもたらす害を取り除いてくれるともいわれる。

外見：魔女は多くの場合、人間の女性の姿をしている。人間と異なる点としてしばしば挙げられるのが、尻尾、短い角、羽、二列に生えている歯、口ひげ、濃い眉毛である。服装としては白い服、髪型としては編まずに垂らした長い髪が挙げられる場合が多い。魔女の目については、「腫れぼったい瞼」「充血した目」「定まらない視線」「獰猛な目付き」「人の目を直視しない」「魔女の目の中では人間が逆さまに映って見える」などと言われる。また一説によれば、ルサールカと同様「北の魔女は醜い老女で、南の魔女は若くて魅力的な美女」とも言

⁶ 聖ヨハネ祭はイワン・クパーラと呼ばれる。旧暦とはユリウス暦を指す。ロシアではグレゴリウス暦（新暦）が用いられるようになったのは1918年以降のことで、旧暦の月日の数え方は、新暦より12～13日遅れている。

われる⁷。

魔女には変身能力があるとされるため、次のような姿で現れることもある。まず鳥類としては、カラス、アヒル、カモ、コウノトリ、ツバメ、カササギ、雌鶏、フクロウなど、動物としては、馬、仔牛、牝牛、牡牛、雌狼、鼠、ヤマカガシ、亀、クサリヘビ、犬、豚、黒猫、イイズナ、羊、ノロ、兎などである。場合によっては物体(車輪、篩、干草の山、毛糸玉、葉、棒、枝、カゴ、灌木、桶のたが等)に姿を変えることもあるという。また姿を消すこともできると考えられている。

能力：上記の変身能力の他に、魔女にはさまざまな特殊な能力が備わっていると考えられている。すなわち「鳥や動物の言葉を理解する」「魔法や病気治療に必要な薬草を見つける」「薬草の調合方法の仕方を知っている」「(そのままの姿で／煙、つむじ風、鳥になって)空を飛ぶ」などである。薬草についての能力は、特に魔女が活発になるといわれている聖ヨハネ祭の前夜には草が薬効を持ち、その上にたまった夜露も薬になるという俗信と関わっているといえる。また「聖ヨハネ祭などといった大きな祝日に魔女たちが箒に乗って饗宴に集まり乱痴気騒ぎをする」という西ヨーロッパのフォークロアに顕著なモチーフは、東スラヴにおいては稀で、南西部に見られるのみである。

人間に及ぼす害：魔女は主に人間と家畜に対して害を与えると考えられている。その方法としては、たとえば「牝牛の乳の出を悪くする」「呪いや邪視によって病気や不幸を家畜や人間に送る」「小動物に変身して家屋に侵入して牝牛の乳を飲み尽くす」「結婚式を台無しにする」「家庭内に不和を生じさせる」、あるいは「畑を荒らして／旱魃を招いて／雨雲を散らして、収穫に被害を与える」といったことが知られる。逆にいえば、誰かが病気になったり、牝牛の乳の出が悪くなったり、収穫が少なかったりすれば魔女の仕業と考えられるのである。魔女が善行を行う例も見られるが稀である。

⁷ русалка (ルサーカ) とは、東スラヴのフォークロア、主にフィリーチカに、水辺やライ麦畑に現れる不思議な精霊・妖怪として登場する存在である。

イルクーツクの魔女：イルクーツク州ジマ地区マスリャノゴルスク村でのフォークロア調査を端緒として（塚崎今日子）

魔女の死：数ある魔女についての俗信の中でもとりわけ特徴的なのが、「魔女は死ぬ時に猛烈に苦しむ」というものである。悪魔的存在との関わった罰とされる死に際の苦しみは、魔女が自らの知識を別の誰かに与えない限り、あるいは家の天井を取り壊さない限り、ずっと続くと考えられている。

魔女除け：魔女除けとして行われる行為は、他の悪魔的存在一般に対して行われるものとほぼ同じで、教会と関わりのあるもの、鉄製の道具、棘のある植物などが用いられる。すなわち、魔女が家屋に侵入しないためには、「キリスト迎接祭（旧暦2月2日）もしくは結婚式の時に使った蠟燭を入りに付ける」「柄の長い箒を門に打ち込む」「門柱に馬鋏の歯を刺しておく」「家畜小屋や母屋の戸にイラクサ、ヤマナラシ、何らかの棘のある植物、白樺や楓の枝等を付ける」「家畜小屋の扉付近に、歯を外側にした馬鋏、上下逆さにした箒、熊手、鍋支えを置く」「敷居の上にナイフ、斧、鎌といった尖った金属を置く」などする。

その他にも、特に家畜小屋については「周囲に芥子を撒く（魔女や魔法使いは芥子を超えることができない）」「周囲の土を鎌で掘り起こす」「戸口の上に白墨で十字を描く」「カササギ、コウモリ、鏡、ズボンなどをぶら下げた馬鋏を立てておく」などといった行為がある。

以上、東スラヴにおける魔女の一般的イメージをまとめてみた。次に、イルクーツク州周辺においては魔女はどのように考えられているかを検証する。まず当地で採録された魔女にまつわるブイリーチカの内容を整理し、他の地域と比較してその特徴を指摘したい。

2. イルクーツク州近辺における魔女のブイリーチカ

シベリアで「魔女」の名称として使われている語としては、ведьма、хому́тница、воро́жея、знахарка、шаманка、колудняがある⁸。хому́тница という名

⁸ Виноградова Л. Н. Ведьма // Народная демонология мифо-ритуальная традиция славян.

称は、「首輪 *хомут* を掛ける (=魔女が呪いをかける)」というシベリア特有の言い回しに由来する。また通常「呪い治療師」と和訳されることが多い *знахар-ка* であるが、ここでは「よい魔女」という意味で使われている。*шаманка* (シャマンカ) という名称には、シベリアにおけるシャーマニズムの伝統が読み取れよう。

ところで、20 世紀後半、イルクーツク州を中心とする東シベリアにおいて、ブイリーチカを中心とするフォークロア資料の採録と研究に最も貢献したのは B. П. ジノーヴィエフ (1942-1983) である。ブイリーチカというジャンルについて、おそらく初めて踏み込んだ分析が行われた論文『ブイリーチカのジャンルとしての特性』⁹ (1974 年) をはじめ、死後の出版となった「シベリアのブイリーチカとブイヴァーリシチナ¹⁰ の筋インデックス」¹¹ (1985 年)、著書『東シベリアに住むロシア人における怪異譚』¹² (1987 年) は、今日のロシアのフォークロア研究においても高い価値を持っている。

「シベリアのブイリーチカとブイヴァーリシチナの筋インデックス」の対象となっているのは、1966 年から 1980 年にかけて、B. П. ジノーヴィエフがイルクーツク大学、イルクーツク教育大学の学生たちと共に、イルクーツク州 (ウスチ・ウダ地区、アタランカ村) およびイルクーツク州の東に位置するチタ州 (添付資料 2 参照) において採録した、1800 話にのぼるブイリーチカである。また『東シベリアに住むロシア人における怪異譚』においては、その中から厳選された 444 話のブイリーチカ・テキストが紹介されている。限定された地域に

—M., 2000. С.245.

⁹ Зиновьев В. П. Жанровые особенности быличек. —Иркутск, 1974.

¹⁰ бывалищина (ブイヴァーリシチナ) とは、妖怪や超常的な内容を持つ点ではブイリーチカと同じであるが、事実譚として語られたわけではない断片的な俗信。現在のロシアのフォークロア研究においてはこうしたものも含めて「ブイリーチカ」と総称される傾向が強く、この用語が使用されることはほとんど無い。

¹¹ Зиновьев В. П. Указатель сюжетов сибирских быличек и бывальщин // Локальные особенности русского фольклора Сибири. —Иркутск, 1985, С.62-76.

¹² Зиновьев В. П. Мифологические рассказы русского населения Восточной Сибири. —Иркутск, 1987.

イルクーツクの魔女：イルクーツク州ジマ地区マスリャノゴルスク村でのフォークロア調査を端緒として（塚崎今日子）

において採録されたブィリーチカが、これほど数多く、しかもまとまった形で提示されている例はない。

そこで、イルクーツク州における魔女のブィリーチカの特性を考察するに当たり、まず「シベリアのブィリーチカとブィヴァーリシチナの筋インデックス」『東シベリアに住むロシア人における怪異譚』において紹介されている、魔女に関するブィリーチカを筋や属性に応じて整理してみたい。ここで注意しておきたいのは、これらのインデックス、著書が、魔女に関するブィリーチカの内容を学問的に整理した初の試みであったという点である。ロシアにおけるブィリーチカの初インデックスとしては、Э. В. Померанцевьяの著書『ロシア・フォークロアにおける神話的登場人物』¹³（1975年）の巻末に掲載された、東スラヴのブィリーチカを対象としてС. Айважанが作成したものがよく知られている。しかしこのインデックスにある項目は、「レーシイ、ヴォジャノイ、ルサールカ、ポレヴィク、ポールドニツツァ、ドモヴォイ、バンニク、グメンニク、オヴィンニク、ポドヴニク¹⁴、悪魔、呪われた者、蛇」のみであり、「魔女」の項目は無かった。В. П. ЖинэвьевはЭ. В. Померанцевьяの研究に大いに触発され、上記のインデックスに基づいて自らのブィリーチカ資料を提示しようとしたが、その際「魔女」「魔法使い」といった新たな、そして大きな項目を加えざるを得なかった。逆の見方をすれば、新たに項目を立てなければならないほどに、彼の手元にはそれらに関する資料が多かったということである。こうした意味でも、それらの内容を改めて検証しておく意味は大きいといえよう。

以下がВ. П. Жинэвьевが採録した魔女に関するブィリーチカを、筋や

¹³ Померанцева Э. В. Мифологические персонажи в русском фольклоре. — М., 1975.

¹⁴ леший（レーシイ）、водяной（ヴォジャノイ）、русалка（ルサールカ）、полевик（ポレヴィク）、полудница（ポールドニツツァ）、банник（バンニク）、гуменник（グメンニク）、овинник（オヴィンニク）、подовник（ポドヴニク）。これらはそれぞれ東スラヴのフォークロア（特にブィリーチカや俗信）に、妖怪、精霊、森や河川、畑、家屋内各所の主として登場する存在の名称である。

モチーフによって整理したものである¹⁵。〔 〕内の数字は「シベリアのフィリーチカとブィヴァーリシチナの筋インデックス」における、【 】内の数字は『東シベリアに住むロシア人における怪異譚』における話数であるが、前述のように両者の資料内容は重複しているので、単純に数を足して比較することはできないのは勿論である。しかしイルクーツク周辺における魔女の傾向を把握する手掛かりにはなると考える。

1. 魔女が(…)になる

①カササギその他の鳥〔33〕【13】

②豚〔56〕【8】

③犬〔15〕【2】

④物〔15〕【1】

⑤猫〔4〕【3】

⑥雌馬〔4〕【1】

⑦つむじ風〔1〕【0】

⑧ウサギ〔1〕【0】

⑨仔牛〔1〕【0】

⑩熊、狼〔1〕【1】

⑪蛇〔3〕【1】

2. 魔女が人に呪いをかける（「首輪を掛ける¹⁶」／邪視で人・赤ん坊を病気にする／殺す／不幸にする／自殺させる等）。〔113〕【25】

3. 魔女が家畜に呪いをかける（病気にする／疫病にする／雌牛の乳を奪う／不具にする／馬、仔牛、雛をだめにする等）。〔63〕【18】

4. 魔女が物に呪いをかける（呪いをかけられ、ペチカが炊けなくなる／銃が撃てなくなる／大根が黒ずむ等）。〔4〕【2】

¹⁵ Зиновьев В. П. Указатель сюжетов сибирских быличек и бывальщин. С.71-73; Мифологические рассказы русского населения Восточной Сибири. С.127-190, С.313-316.

¹⁶ 前述のように、「首輪をかける надевать хомут」とは「魔女が呪いをかける」という意味。

5. 魔女に呪われて家庭内に不和が生じる等。〔8〕【3】
6. 魔女が結婚式を呪う（結婚式の客が口論・掴み合いの喧嘩をする／花嫁が祝宴の席につかない等）。〔5〕【1】
7. 魔女が胎内から胎児を盗む（夜中に家々を回って妊娠中の女性・牝牛から胎児を盗む／代わりに燃えさし・枝箒・丸パンの切れ端・刷毛などを置いていく／盗んだ胎児は食べる等）。〔32〕【9】
8. 魔女が変身して人の後をつける（追いかける／足元に飛びかかる等）〔36〕【4】
9. 魔女が変身して人の後をつけて襲ってくるが、逆に正体が暴かれる（人が、自分の後を付いてくる豚／鳥／猫／毛糸玉／犬／馬を、殴る／傷つける／塀に縛り付ける／蹄鉄を打ち付ける。すると翌日魔女と疑われていた女が同じ傷を負っている等）。〔56〕【11】
10. 魔女が占い／予言をする（その通りになる等）。〔10〕【4】
11. 魔女に弄ばれる（魔女の畑のものを盗もうとしたが出られなくなる）。〔1〕【1】
12. 魔女に弄ばれる（実際には無いものを見させられる）。〔1〕【1】
13. 魔女に弄ばれる（魔女の命令どおりにしか動けなくなり、その場から動けなくなる／魔女のもとから去ることができない等）。〔3〕【1】
14. 魔女が蛇を操る（気に入らない人の家や畑に蛇をやる等）。〔8〕【3】
15. 魔女が動物を操る（家畜に自分が帰るべき家を分からせる／馬が畑を荒らさなくなる／猫が鼠を捕ってくる／狼が村から出て行く等）。〔2〕【2】
16. 魔女が良くないもの（キキーモラ¹⁷／虚勢豚等）を人や家にけしかける。〔10〕【1】
17. 魔女は悪魔的存在と関わりを持っている（12時になると魔女は地下から悪魔を放つ／家の中で騒音や轟音をたてる／死に掛けている魔女の周りを悪魔

¹⁷ кикимора（キキーモラ）は、東スラヴのフォークロア（特にブイリーチカや俗信）において、主に家屋にいる女性形の妖怪として登場する。

- が取り囲む／死に掛けている魔女の家から悪魔が出てくる等)。〔6〕【2】
18. 魔女がドモヴォイ¹⁸を家畜や人間にけしかける（魔女によって送り込まれたドモヴォイが家畜を苦しめる／牝牛の乳を出なくする／人を苦しめる）。〔2〕【2】
19. 魔女が悪魔を人間にけしかける（人が病気になる）。〔1〕【1】
20. 魔女が狼を助ける／邪魔する（魔女が狼の結果を予言する／魔女の前で獣は殺せない等）。〔4〕【1】
21. 魔女は煙突から（しばしば鳥の姿で）飛んでいく。〔39〕【10】
22. 魔女の魂だけが体を離れて飛ぶ。〔2〕【0】
23. 魔女は箒・杖にまたがって飛ぶ。〔5〕【0】
24. 魔女は墓場へ飛んでいく。〔1〕【0】
25. 魔女は空中を歩く。〔1〕【0】
26. 魔女は自分の魔力を伝授する（魔女は死ぬ前に魔力を伝えるために人・若者を呼び寄せる等）。〔7〕【1】
27. 魔女は魔力を伝授する相手の能力を試す（狼、熊、蛇に変身し、怖がった娘を追い払う）。〔1〕【1】
28. 魔女は死に際に苦しむ（魔女は死ぬときに猛烈に苦しむ／一定の条件を満たさなければ死ぬことができない／誰かに魔力を授けると死ぬことができる／屋根の棟を取り払い、糸杉の木を焚き、垣根の12番目の杭から十字架を作ると死ぬ等）。〔27〕【8】
29. 魔女は死後墓から蘇る（夜中に自分の家に来て入れてくれるように頼む／家事をする／墓にヤマナラシの杭を刺すとやってこなくなる等）。〔12〕【2】
30. 魔女の葬式（魔女が棺の中から（蛇の姿で）飛び立つ／雷や轟音がとどろく／棺の蓋が落ちたり裂けたりする等）〔3〕【2】
31. 魔女除け（血まみれになるまで殴る／思い切り殴る／家から追い出す等）〔28〕【7】

¹⁸ домовой（ドモヴォイ）は主に家霊、家の主、家にいる妖怪として登場する存在である。

32. 魔女除け（魔女が変身した物の影を叩く等）〔4〕【2】
33. 魔女除け（罵られると魔女は危害を加えられない等）〔7〕【1】
34. 魔女除け（胸の十字架にある種の草を付けていると、魔女が家畜に害を与えない）〔1〕【1】
35. 魔女が家を出られなくなる（鍋ささえを逆さまにして立てておく／机・敷居・戸にナイフ・針・鋏を刺しておく／魔女が小用を足す場所にヤマナラシの杭を打ち込む等）。〔20〕【4】
36. 魔女が饗宴に飛んでいく（薬草を塗って煙突から饗宴・墓に飛んでいく／魔女の夫・一緒にいた男も魔女の饗宴に飛んでいくが、馬に乘せられて家に戻される。馬は家で箒・棒・椅子になる等）。〔11〕【6】
37. 魔女が巧みに牛の乳絞りをする（カササギ・猫・豚・犬の姿で他人の家の牛から乳を搾り取る等）。〔16〕【2】
38. 魔女が魔法を使っている（死んだ先祖を呼んで飛び回ったり叫んだりしている。失神したり意識を取り戻したりしながら回転している等）。〔9〕【3】
39. 聖ヨハネ祭に魔女は活動的になる（子豚の毛を刈り取りタールを塗る等）。〔2〕【1】
40. 魔女は復活祭前の洗足木曜日に活動する。〔16〕【7】
41. 魔女が畑仕事を妨害する。〔2〕【1】
42. 魔女が家の中に蛙を放す。〔1〕【1】
43. よい魔女¹⁹が人を癒す（魔女が水・油・パン・塩・茶・蠟に線を引いたり何か唱えたりして、それを患部に塗ったり飲ませたりして、人の病気を直す等）。〔63〕【8】
44. よい魔女が動物を癒す（魔女が動物を病気や呪いから救う等）。〔15〕【4】
45. よい魔女が物を直す（魔女が銃を直し、猟が成功する）。〔1〕【1】
46. よい魔女が火事を消す（魔女が卵に何かを唱え、それを火の中に投げると

¹⁹ 1 から 38 の「魔女」が ведьма だったのに対し、39 から 44 の「よい魔女」は знахарка である。

火が消える)。〔1〕【1】

47. よい魔女は遠くからでも人の心を読むことができる（魔女のもとに助けを求めて来た人が、ここに来る前に何を話し何を考えていたかを言い当てる／誰が病気かあらかじめ知っている等）。〔4〕【1】
48. よい魔女が悪い魔女（ведьма）や魔法使いを罰する（よい魔女が悪い魔女の息子を懲らしめる／悪い魔女に病気を送る／悪い魔女がよい魔女の命令どおりにするようにする／魔法使いが死ぬ前に手で地面を掘らせる）。〔3〕【1】

以上の内容から、イルクーツク周辺における魔女にまつわるフォークロアの特徴を考えてみたい。

まず目を引くのは「1. 魔女が人に呪いをかける」「2. 魔女が家畜に呪いをかける」の話数が際立って多い点である。「首輪を掛ける」という独特の表現が、「魔女が呪いをかける」という意味で定着している点からも、「魔女が呪いをかける」という行為が一般的に広く認識されていたことがうかがえる。単に「魔女が何かに呪いをかける」という点からブイリーチカ全体の内容を捉えなおしてみると、そうした行為が際立って多いことがより明白になる。すなわち、魔女の呪力によって、人間については「病気になる／損害をこうむる／不幸になる／結婚式を台無しにされる／弄ばれる／動物などに変身した魔女に追いかける、痛めつけられる／家庭内が不和になる／仕事を妨害される／嫌なものをけしかけられる／家の中に嫌なものを入れられる」、家畜が「病気になる／疫病に罹る／雌牛が乳を出さなくなる／不具になる／馬、仔牛、雛が死ぬ」、物については「ペチカが炊けなくなる／銃が撃てなくなる／野菜が傷む」といった内容を持つものは、上記 48 項目中 16 項目にも及ぶ。これは逆に言えば、いかに些細なことでも、何らかの不具合が起こった場合は、魔女の所為にされうるということでもある。

また項目 43～48 に登場する「よい魔女 знахарка」という存在も興味深い。前述のように、ロシアでは一般的に знахарка は「^{まじな}呪い治療師」、つまり^{まじな}呪いや薬

イルクーツクの魔女：イルクーツク州ジマ地区マスリャノゴルスク村でのフォークロア調査を端緒として（塚崎今日子）

草の力で病気を治すことをよくする女性という意味で主に使われる。しかし上記のインデックスにおいては、знахарка は、悪事ばかり働く魔女 ведьма に対する「よい魔女」として、人間や動物、物を癒し、悪い魔女や魔法使いを罰する存在として対置されていることが明らかである。人間に及ぼす利害から見て悪い魔法は黒魔術 чёрная магия、良い魔法は白魔術 белая магия と呼ばれるが、同じ魔女でも、ведьма は前者を、знахарка は後者を使うものとして捉えられているといえる。

また、「36. 魔女が饗宴に飛んでいく」の項目に少なからぬ数（[11]【6】）の話が集められている点も興味深い。前にも記したように、「聖ヨハネ祭などといった大きな祝日に魔女たちが箒に乗って饗宴に集まり乱痴気騒ぎをする」という西ヨーロッパのフォークロアに顕著なモチーフは、東スラヴでは南西部にわずかに見られるのみであり、スラヴ圏内では西スラヴのラウジッツ地方では比較的頻繁に聞かれるという。このことと共に、大いに注目したいのが、「7. 魔女が胎内から胎児を盗む」という項目である。ここに見られるようなモチーフ（胎児を盗む、食べる）は、カルパティア地方以南の南スラヴ地域における魔女や吸血鬼にまつわるフォークロアにおいてはよく見られるものである。ボソルカ босорка と呼ばれるカルパティア地方の魔女は、母親のもとから新生児をさらい、代わりに7年しか生きることができない、醜く泣いてばかりで猫背の我が子を置いていくと言われている²⁰。また南スラヴの魔女 вештица は、母親の胎内から胎児を盗んで食べ、子どもや動物の血を飲み、動物の死骸を常食にしていると伝えられている。モンテネグロでは、魔女になりたいと望む女は、他人の赤ん坊を食べられるようになるために、まず自分の子どもを食べなくてはならないと考えられており、突然赤ん坊が死ぬと「忌まわしい魔女に心臓を吸われた」という²¹。以上のように、西ヨーロッパ、西スラヴや南スラヴに顕著で、東スラヴ、特にヨーロッパ・ロシアや北ロシアのフォークロアにおいては

²⁰ Виноградова Л. Н. Ведьма... С.237.

²¹ Виноградова Л. Н. Ведьма... С.239-240.

きわめて稀であるモチーフが、遠く離れた東シベリアのフォークロアにおいてよく現れている。この点を検証するところは本論の枠を超えているが、きわめて興味深い問題点として指摘しておきたい。

最後に指摘したいのは、イルクーツク周辺の魔女が聖ヨハネ祭との関係が比較的希薄である点である。項目 39、40 を見れば分かるように、聖ヨハネ祭よりはむしろ復活祭前の洗足木曜日との関わりが強い。このことは、たとえばウクライナやベラルーシ、ポーシェ地方の聖ヨハネ祭の儀礼や歌や俗信において、「魔女」や「魔女払い」のモチーフがきわめて顕著に出てくるのとは対照的である。一般的に東スラヴの魔女は薬草についてよく知っていると考えられているが、それは聖ヨハネ祭の前夜に薬効を持つとされる草や夜露に関する俗信と強くかかわっていることは前に指摘したとおりである。イルクーツク周辺の魔女のブィリーチカにおいて、薬草にかかわるモチーフが前面に出てこないのは(36に見られるのみである)、彼らと聖ヨハネ祭との関わりが希薄であることに主な要因が求められよう。

以上、主に B. П. ジノーヴィエフの資料に基づいて、イルクーツクを中心とする東シベリアにおける魔女について検討した。その結果、東スラヴにおいては稀で、南スラヴ、西スラヴにおいては顕著なモチーフが見られることを指摘した。また、ここに登場する魔女は、特定の祝日との関わりをもって語られるというよりは、日常生活における不幸、災いとの関わりにおいて言及されているということがいえよう。

3. イルクーツク州ジマ地区マスリャノゴルスク村の魔女

最後に、2004 年のイルクーツク州ジマ地区マスリャノゴルスク村で採録した魔女に関するブィリーチカについても触れておきたい。ここでは 8 名(男 3、女 5)のインフォーマント²² から話を聞いた。最高齢が 1927 年生まれ、最も若

²² リュドミラ・チェレドニク Людмира Чередник (女、1948 年、マスリャノゴルスク村生ま

イルクーツクの魔女：イルクーツク州ジマ地区マスリャノゴルスク村でのフォークロア調査を端緒として（塚崎今日子）

くて1954年生まれで、調査時での平均年齢は約65歳である。インフォーマントとしては決して多いとは言えない人数であるが、全員が自ら知る魔女について名を挙げて語ってくれた。その際名指しで挙げられた魔女（魔法使い）は、①アレクサンドル・トロロフ（男、生年不詳、20～25年前に死去）、②アリョーナ・ルツキナ（女、生年不詳、20～30年前に死去）、③カテリーナ・ソルダチェンコ（女、1923年生まれ、2001年死去）、④オリガ・ボイツォヴァ（女、生年不詳）、⑤カテリーナ・リャーギナ（女、生年不詳）、⑥ナジェージダ・ミーナ²³（女、1921年生まれ²⁴）の6名である。中でももっとも話題に挙がったのが⑥のミーナで、彼女には実際に会うことができた。そこでここではミーナについて中心に述べることにしたい。

マスリャノゴルスク村で聞くことができた魔女についての俗信としては、「魔女はведьмаと呼ぶ、знахарка^{まじな}は呪いなどで病気の治療をしてくれるよい存在」「魔女は人や家畜を呪って苦しめる」「魔女は特に洗足木曜日に活動的になる」「魔女や魔法使いは苦しんで死ぬ」といったものである。

「魔女」と言われているミーナについて聞いた話としては次のようなものがあった。

「彼女（ミーナ）が家の近くを通った後、家畜が病気になったり死んだりして、牝牛は子どもを生まなくなった。生んだとしてもすぐに死んでしまうことが5度続いた」

れ）、ゾフィヤ・イヴァンコヴィチ Зофия Иванкович（女、1930年、ヴェルフニャヤ・オカ村生まれ）、ヤコフ・ニェウダチン Яков Неудачин（男、1954年、ジマ生まれ）、マリヤ・ソルダチェンコ Мария Солдатенко（女、1927年、クラスノヤルスク生まれ）、ニコライ・ソルダチェンコ Николай Солдатенко（男、1929年、マスリャノゴルスク村生まれ）、ヴラジミル・フィヂク Владимир Фидик（男、1939年、ヴェルフニャヤ・オカ村生まれ）、リュドミラ・フィヂク（女、1948年、ジマ生まれ）、リディヤ・チェルヴァチコヴァ（女、1940年、マスリャノゴルスク村生まれ）

²³ ①Александр Тололов、②Алёна Луцкина、③Катерина Солдатенкина、④Ольга Бойцова、⑤Катерина Лягина、⑥Надежда Минина。

²⁴ ナジェージダ・ミーナから話を聞くことができたのは、後述するようにマスリャノゴルスク村ではないのでインフォーマントからは除いてある。

「7年前、彼女が病院に行くと言病人が死に、首吊り自殺した病人もいた」

「わざわざイルクーツクの教会に行って芥子を清めてもらって撒いた。魔女は芥子を超えることができないというからだ。果たして彼女が飼っていた牛は道に撒いた芥子を超えることができなかった」

「彼女は片目だったが、彼女に見られた牛の乳が出なくなった」

「ある時牛乳が酸っぱかった。あれは彼女に呪われたせいだと思う」

「彼女はおそらく飛ぶことができるし、魔法も使える」

「皆彼女を恐れていた。今年彼女が村をでて皆が喜んだ」

2004年の初めにマスリャノゴルスク村を去ったミーニナに会うことができたのは、今回の調査の最後、8月30日のことだった。彼女はマスリャノゴルスク村から19キロメートルほど離れた、イルクーツクに程近いアンガルスク(添付資料3参照)という大きな町に越し、洗礼名をつけてやった娘 *крёстная дочь* の世話になっていた。その娘を訪ねると、ミーニナは市営病院に入院しているとわかり、短い時間ではあったが病院の廊下で面会をすることができた。

83歳のミーニナは片方の目が不自由のようだったが、たいへん穏やかで親切なごく一般的なロシアの老婦人で、敬虔な信者であった。我々の質問に答えて、彼女は病気を治す^{まじな}呪い、雨雲を追い払う呪いを一語一語丁寧に教えてくれ、かつての風習について詳しく語ってくれた。彼女は数多くの呪いを知っていたが、それらは書き留めてはおらず、すべて暗記しているとのことだった。その年齢を考えてみると、驚くべき記憶力と言うべきであろう。彼女がマスリャノゴルスク村からアンガルスクに越した理由は、上記の娘が高齢で身寄りの無い彼女の身を心配して引き取ったということだった。しかし「魔女」扱いされていた村にいつらかったという事情もあったのではないかと推察した。もちろん、そのことについて彼女は何も言わなかったもので、これは憶測に過ぎない。しかし、魔女信仰における「他者の排除」という機能についても今後考えていく必要があるかもしれない。

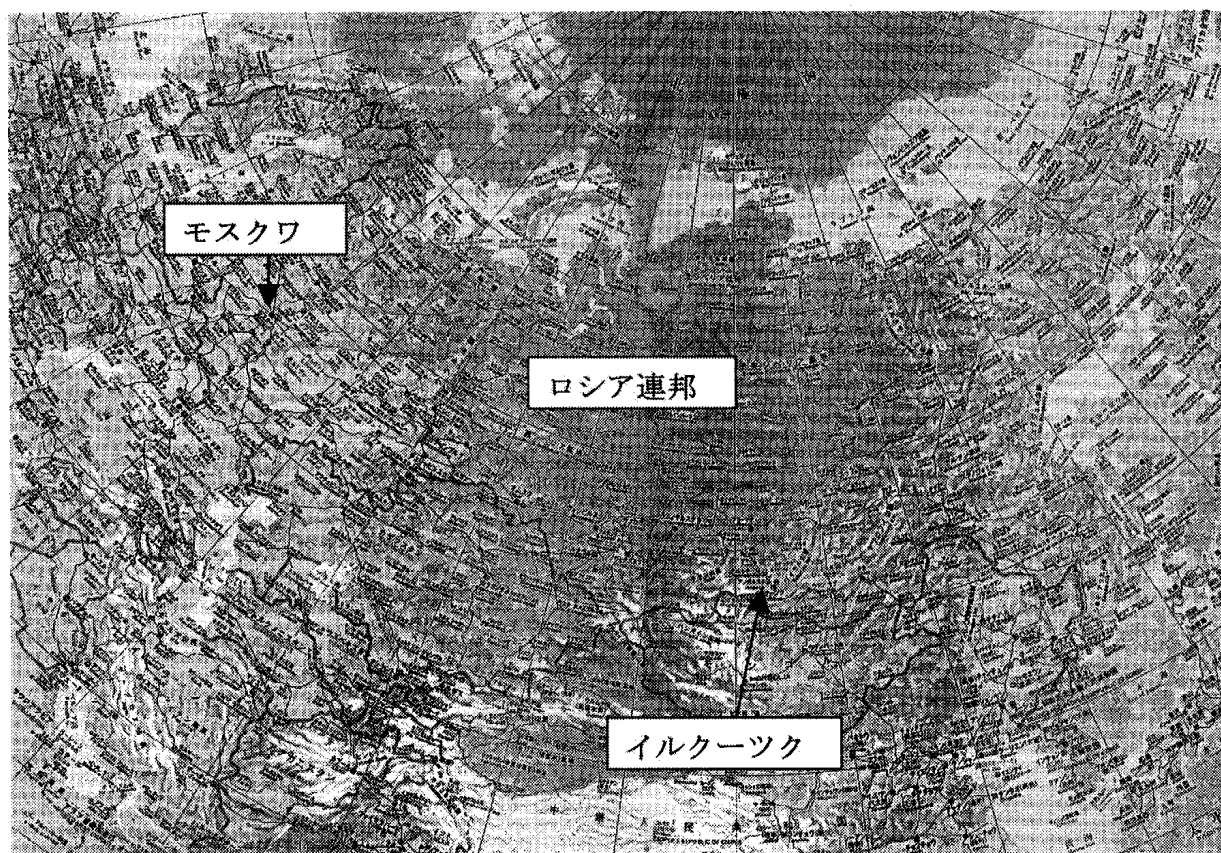
イルクーツクの魔女：イルクーツク州ジマ地区マスリャノゴルスク村でのフォークロア調査を端緒として（塚崎今日子）

マスリャノゴルスク村における魔女に関する俗信は、「人や動物に呪いをかける」「ведьма（悪い魔女）と знахарка（よい魔女）の対置」「聖ヨハネ祭との関わりが希薄」といった点、また日常生活における厄災（家畜の発病や死、牝牛の乳が出なくなる）と結び付けて考えられている点で、先に検討したイルクーツク周辺におけるそれと一致している。

M. ヴラーソフによれば、19世紀に採録された魔女に関するフォークロアと比較すると、20世紀以降、魔女が「変身する」「飛行する」というモチーフは減少の一途を辿っているのに対して、「人や動物に呪いをかける」というモチーフは、現代においても変わらずよく聞かれるという²⁵。そうだとすれば、魔女が日常生活における厄災と結び付けて考えられるという傾向は局地的なものではなく、ロシア全体の俗信に当てはまるといえる。今後は、こうした点にも留意しつつ、一定地域の魔女の俗信について検討を重ねていく必要があるだろう。

²⁵ Власова М. Новая абевера русских суеверий. —СПб., 1995, С.78.

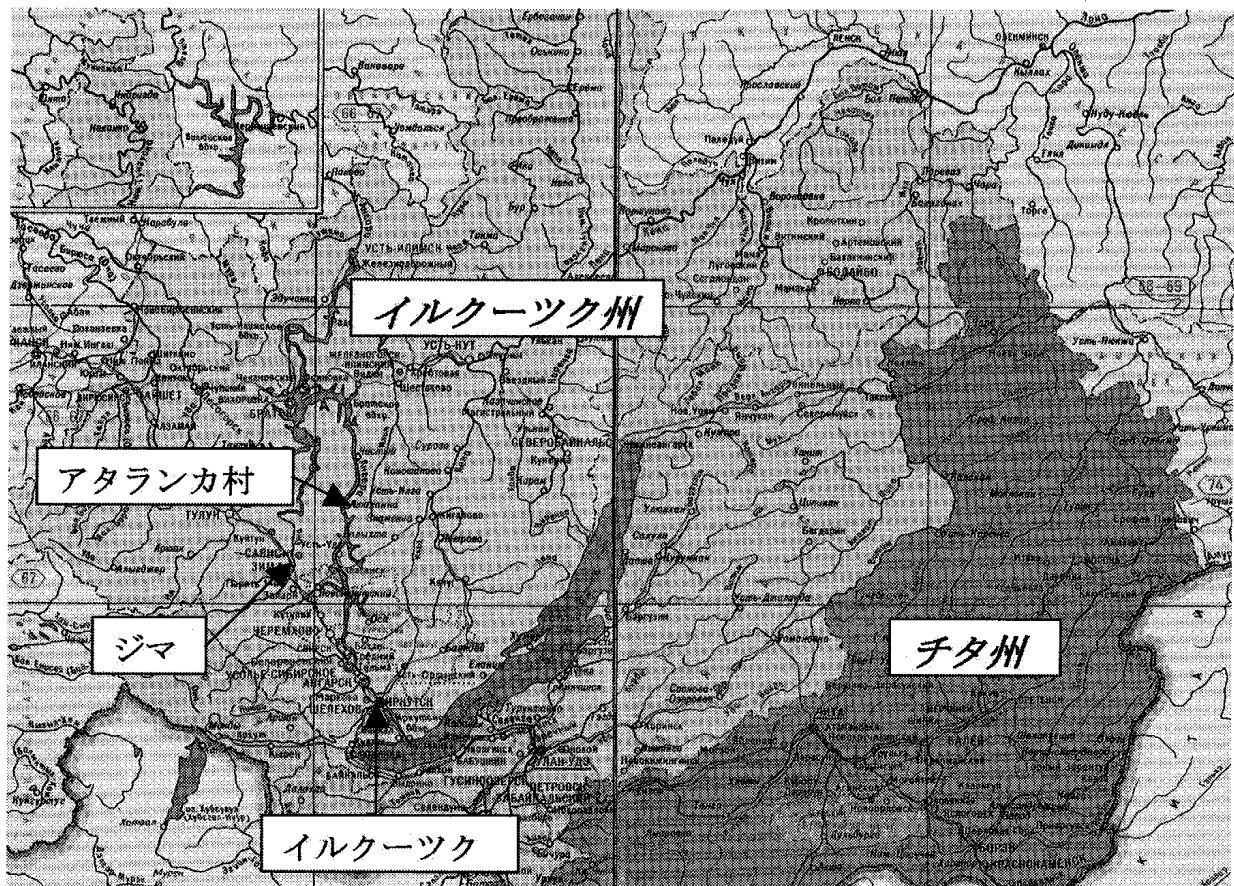
【資料1】



中野尊正（監修）『世界地図』国際地学協会、1998 年、62-63 頁。

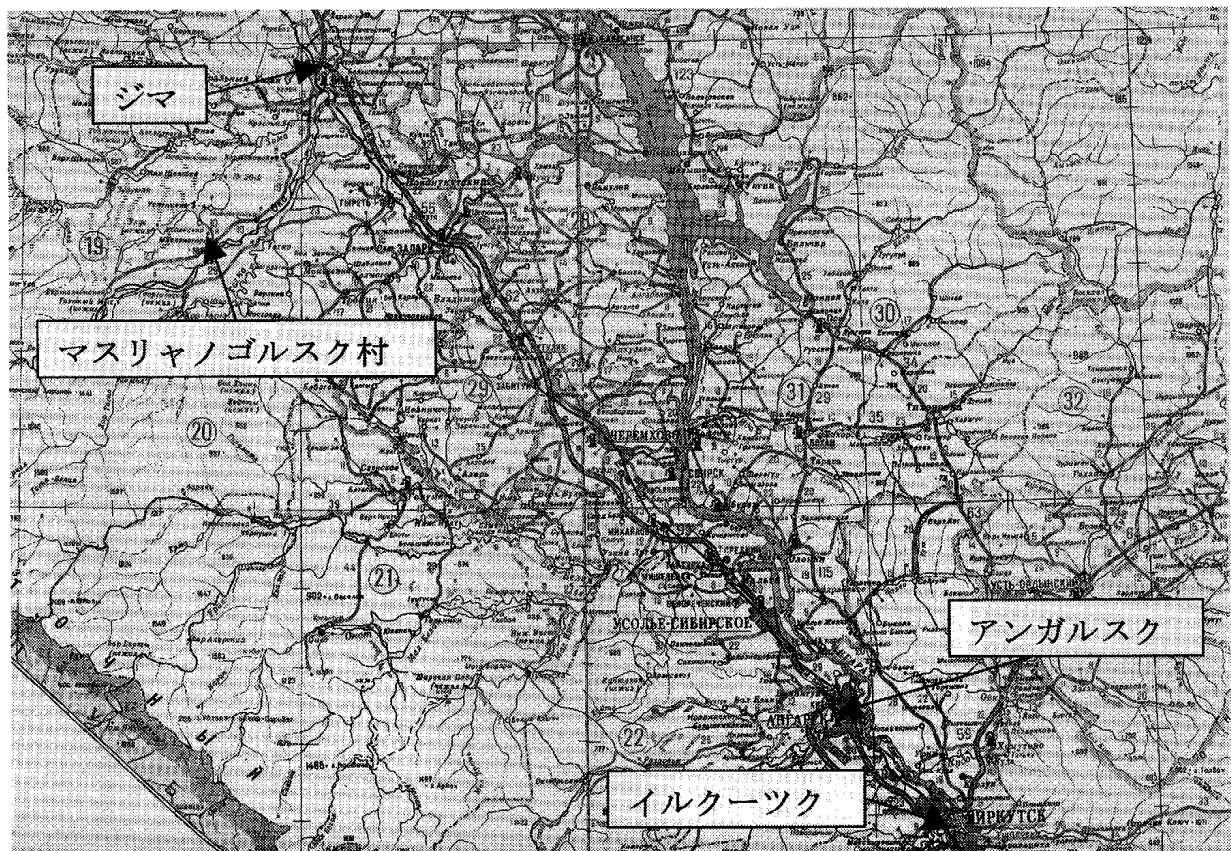
イルクーツクの魔女：イルクーツク州ジマ地区マスリャノゴルスク村でのフォークロア調査を端緒として（塚崎今日子）

【資料 2】



Пейхвассер В. Н.(ред.) Атлас СССР. —М., 1990. С.30-31.

【資料 3】



Иркутская область: Карта автомобильных дорог. —Иркутск, 2001.